

先日、桜の木とクビアカツヤカミキリの関係を紹介しました。

埼玉県環境科学国際センターの二人の研究員（農学博士）調査に立ち会った。本庄市の一部である元小山川の花橋～上流のフラワー公園（約2km）の間の公園、神社、グランド周辺の桜約340本を調査した。

中には①樹液が穴から流れ出ている。②根本や枝の分岐点に**フラス（注）**が積もる木もあった。悲惨さを感じた。クビアカツヤカミキリのメスは6月～8月頃、桜、梅、桃、花桃等の高齢樹木（古木）の樹皮の割れ目に産卵し、羽化させるとのこと。

- 1, 羽化した幼虫は、直ぐに樹皮に穴をあけて中に侵入し、直下の内部を食べる。そこは樹木が成長する部分で水分、養分の通り道（道管、師管）などがあり、桜は大きなダメージを受ける。枝の落下、倒木などの原因になることもある。垂れる樹液の塊は、桜が幼虫を樹液で包み込もうとする反応だが、その抵抗は空しいとのこと。これにも哀れさを感じる。
- 2, 幼虫は桜の中で約2年間を過ごし4月から10月頃は内部を食べ、食べカスの木屑と糞を孔（排糞孔）から排出されたものを「フラス（注）」と言う。1月～3月頃は幼虫の活動が鈍くなる。さらにすべすべした樹皮の若い桜は被害が少ない。
 - ① 殆どが古木の染井吉野が侵食され、しだれ桜や八重桜は少なく感じた。
 - ② これまでの情報では関東特に北関東に被害が広い。

今回の結論

来春の花見は出来ても、葉桜は分からない。
何故なら、水の道管が噛み切られていると難しい。
するとその先の桜の命や再来年の花は分からない。
本庄市は相当の範囲で被害が広がっていると推定している。



「桜は日本、日本人の心意気」だと思う。

皆さんも是非、桜の根元を見て「フラス」が有ったら各自治体の環境課に一報を入れて下さい。桜を守りましょう。



以上

（2015年に初めて被害が確認されてから、2020年には11都府県に拡大）